

穂高岳山行記録



涸沢越しに奥穂を望む



岩稜を進む



鎖の下降

目的地	穂高岳	期 日	平成22年8月10～12日（金～日）
山人	笠原正雄・澄子	特 記	超人気の山。3日目が悪天候で連峰最高点上に立ってなかった。

地名	時刻	記 事
10日 ：快晴から曇りへ：与板 5:20～沢渡 8:40 / 走行 260km		
上高地バス T	午前 10:15 発	広場ベンチで弁当朝食。周囲にゴミ箱がない。届け記入。
明神館前	11:00	明神岳が聳える。散策者もいる。槍ヶ岳を目指す17名の栃木からの年配団体がいて、そのうちの一人が環境省の自然観察指導員の腕章をつけていた。
落石防止工事中	11:40	梓川河原に迂回路がつけられていた。崖の上ではロープ懸垂で浮石をツルハシでたたき落としている。かなりの高度感だ。進行方向に山が見えるが何山だろうか。
徳 沢 園	11:55～12:10	手前にトイレ棟。キャンプ場が併設されている。脇の小川でカルガモが遊ぶ。外のテーブルベンチで缶ビールとサンドウィッチ。散策道が続く。
横 尾	1:02～1:37	数名が居るのみで、比較的静かだ。直進すれば槍ヶ岳。向かう人と下山の人等が交錯する。栃木の団体がやって来た。水割缶とおにぎり。左折して横尾橋。
本谷橋を渡る	2:35	横尾以後山道となり、徐々に緩登となる。左に屏風岩を見ながら進み吊り橋を渡る。数人が居た。渡り終えて立ち休み。
涸沢小屋が見えた	3:24	樹木の切れ目から小屋が見えた。女性2人隊を追越す。5分後立ち休み。
もう一度立ち休み	3:45	Sガレと思われる地点、真ん中を水が流れる。
涸沢小屋着 (素泊まり)	4:20	15分前にヒュッテとの分岐を経る。背後に大天井岳から見始め、屏風の頭に隠れていた常念岳も見えて来て小屋到着。テラスでは皆が涸沢の景色を楽しんでいる。前穂は見えているが、奥穂はガスが覆っている。早速生ビール、売店前の土間テーブルでレトルト豚豚の夕食。乾燥室もあり、水は豊富に得られる。
快適な寝室		混んではいず、カーテンで仕切られた空間で寝る。寝具も快適、室内は暑いくらいだ。夜中外に出れば満天の星。
11日 ：晴のち霧		
起 床	5:00	α飯・サケ缶詰・ポテトサラダで朝食。晴れて良く見えて来る。
歩 き 出 し	6:40	ヒュッテおよびテン場の人たちが上がって来る。
ガレ場の終端	7:40	振り返れば富士山が見えた。高曇りで、日差しを受ければ暑い、陰るとヒンヤリする。
羊糞で休む	7:50	ここから鎖や梯子を降りている人が見える。
鎖・梯子を終える	8:10	下りて来る人もあり、少し待って、ストックを収納し鎖、梯子を上る。
南稜最後の鎖	8:50	直前でひと呼吸入れてから登る。しばらく進みストック歩行へ。
キャンプ指定地	9:20～9:30	テントは無かった。後続を待つ。
北穂高岳山頂	9:45	槍ヶ岳が見える。誰も居なかった。直ぐに先へ下り山荘へ行く。
北穂山荘テラス	9:50～11:10	槍ヶ岳は指呼の間だ。槍の小屋がいくつかはっきり見える。雲が流れるものの双六、鷲羽、水晶と黒部の山々が見えている。生ビール1,000円を買う。クロワッサンとポタージュスープでランチ。景色を楽しみゆっくり過ごす。出発する頃になるとガスが上がって来て展望が無くなる。
岩稜を進む	11:35	三点確保が必要、ストックを収納。再度黒部の山々が見えて来た。
笠ヶ岳が見えた	12:10	雲が流れるがしっかりとピークを確認できた。
休 む	12:35～12:40	地図での危険マーク箇所を通過したと思われる場所で休む。ここから鞍部へ。
最低コル	12:42	足元にさびた看板があった。
ルンゼの鎖場	1:33	岩に足掛り用ボルトが打込んである。垂直に近い鎖、腕力が要る登り。飛騨側からどんとガスが上がって来る。
涸 沢 岳	1:40	登路からはずれ左上に標柱がある。展望はまったく無くなる。

穂高岳山荘	2:15 着	ザイテングラートから上がって来る人が見え、テント場を経て山荘前に着く。雲の切れ間から松本市と思われる市街地が見えた。 混んでいれば1床2人で寝るのだろうか、28と30番の寝床を指定され、一人一枚ずつの布団でゆっくり休める。玄関ホール土間テーブルでα飯とレトルトカレー。ロビー、テーブルとも大勢の人で賑わっている。
11日：小雨・霧のち曇り		
穂高岳山荘	8:00 発	早くに起きたのだが、皆が雨降りでグズグズしている。α飯・わかめ味噌汁・昆布巻缶詰。天気回復を待ったが良くならない。時間を考え、奥穂高岳に向けて歩き出す。数分もしないうちに飛騨側から小雨混じりの強い風を受ける。早々に諦めて小屋に戻る。コース変更でザイテングラートを下ることにした。
ザイテングラート		岩場の下り。霧と小雨も下がるにつれて弱くなる。夫婦が下っていたが、奥さんが恐る恐るで、どれ位時間が掛かるのだろうかと思ってしまう。数隊が上がって来る。人気の山だ。おろしたての靴、雨具の山ガール隊もいる。
涸沢小屋	9:30~10:15	手前で雨は止んだ。カールは全体が見渡せ、常念岳も見えるが、奥穂・前穂はガスに覆われている。ビールを買い、ぶどうパンを食べる。
涸沢ヒュッテ前		小屋の者であろうか、上を見ながら無線交信をしていた。パノラマコースに入る。ヘツリ道が続く。
コース途中	10:50	ヒュッテ以降人影を見なかったが、男2人が先行している。暑くなって雨具を脱ぐ。涸沢対岸が良く見える。
ヘリコプター	11:05	ザイテングラート雪渓付近で事故があったのだろう、一人を吊り上げて行った・
尾根鞍部に上がる	11:15	向こう側の展望が開け、梓川が見下ろせた。
屏風のコル	11:37	涸沢 1.4km, 新村橋 4.0km, 屏風の耳 0.6km の道標あり。ザック1つがデポされていた。耳へは行かずそのまま直進する。
休む	12:05~12:10	登路で腰を下ろす。15分後重ね着の半袖シャツを脱ぐ。
広い河原に出る	12:55~1:03	夫婦が休んでいた。登山道は右に上がり樹林に入るが、涸れた河原を下る。
砂防堰	1:30	堰直前の右岸の布団籠に上がると直ぐ脇に登山道がある。
新村橋	1:55	車道に下りてしばらく進み、先へ続く車道を離れ、左折して新村橋で梓川左岸の遊歩道に戻る。散策者や登山者と出会う。
徳沢園	2:05~2:30	缶ビールを買い。チャーハンを注文しようとしたら、2時までの限定メニューとのこと。山菜そば1杯を注文する。
上高地発	4:10	発車直前のバスに乗る。
新平湯温泉へ		平湯温泉と新平湯温泉は少し距離がある。「田島館」宿泊。

夏山と秋山紅葉シーズンの端境期、シーズン中であればもっと混雑するだろうが、比較的空いていた。今年は9月に入っても猛暑が続いているが、さすが上高地まで来ると涼しい。

天候が順調なら、奥穂～紀美子平～前穂～岳沢～上高地下山の周回コースを行く予定であったが、奥穂の鉄梯子の基部まで行かぬうちに強風を受けて、エスケープをした。時間もあることと、横尾へ同じ道で下るのは少し退屈と思い、パノラマコースを下った。少し長いこととヘツリが連続することからか、このコースを歩く人は少なかった。それさえ覚悟すれば、こちらのほうが景観に優れていると思う。